

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

発行：関西学生サッカー連盟
2009年10月31日発行 第15号

JUFA Kansai

第87回関西学生サッカーリーグ
2009年10月31日(土) 後期6節

関西学生サッカーリーグ 後期 第6節

まだまだ激戦必至！！



第5節 関西大-京産大より

Photo:フリーライター 久住 真穂

延期試合が終了し、全チーム後期5試合を戦った現在、同勝点で並ぶチームが複数と、上位・下位ともに熾烈な状況・・・。
折り返し前に波乱はあるのか！？

■10月31日(土) @大阪長居第2陸上競技場

《第1試合》11:30 Kick off 関西大-大教大

順調に勝ち点を重ねている関西大。今節の相手・大教大には前期は負けている。「大教大はタフなチーム。リベンジとは言わないが良いモチベーションで臨みたい」と主将・清水孝太。一方、「もう失うものは何もないから、思い切り行くしかない」とは大教大・入口豊監督。「春はなんとか勝った相手だが、今一番勢いがある」と関西大を警戒。好調関西大に土をつけられるか。

《第2試合》14:00 Kick off 桃山大-大院大

調子を取り戻してきた桃山大。松本直也監督はDF面を課題にあげながらも「いい流れに入れたようにメドがついてきた」と攻撃面を評価。「どこが相手でもこの流れを続けることを、これから上位に当たっていくから特に強調」(松本監督)し、まずは大院大戦に臨む。中二日、順延の試合で同大を破った大院大。「入替戦回避には一番大事な試合を勝つことができた。桃山大にも粘り勝ちしたい」と、藤原義三監督。この勢いで台風の目となるか。

■10月31日(土) @三木総合防災公園陸上競技場

《第1試合》11:30 Kick off 関学大-びわこ大

首位の関学大。成山一郎ヘッドコーチはゲームの入り方を評価しながらも「なぜか慌て気味でリズムをつかめぬうちに先制された」と前節を振り返る。「びわこ大は一人一人に力があるから、きょうの前半のようなことにならないように」(成山ヘッドコーチ)臨む。対するはびわこ大。望月聡監督は「関学大相手ではDFでもイニシアチブを取れないとダメ」と気を引き締める。「攻めはタテタテの速さをスタートから生かすことが出来れば」(望月監督)勝機を見いだせるはずだ。

《第2試合》14:00 Kick off 同 大-大産大

延期試合の関係で過密スケジュールとなっている同大。「タイトな日程は正直キツイ。コンディションをどれだけ整えられるか」と望月慎之監督。「大産大にはまず油断しないこと」と気を引き締め、「もう負けられない」(望月監督)現状も確認。

対するは、残留へ向け「もう“負けられない”のが現状」(櫛引実監督)の大産大。前節の逆転負けを払拭したいところだ。互いに負けられない戦いを制するのは？

■10月31日(土) @鶴見緑地競技場

《第1試合》11:30 Kick off 阪南大-京産大

インカレ出場可能圏から確定圏を目指す阪南大。「(京産大は)前期2-0から2-3と逆転負けしたんで、しっかりと勝ちたい」と井手口正昭。前期のリベンジも兼ね、勝ち点を積み上げたい。4連敗と勝利が遠い京産大。古井裕之監督は「ここからが本当の勝負」と意気込む。もう負けられない戦いが続く。

《第2試合》14:00 Kick off 立命大-大体大

「大体大は高さスピードがあるので、ウチがバラバラになると、失点を食らったり、リズムが悪くなる」とは立命大・米田隆監督。「どこが相手でも一緒だが、守備の統一感を持ってやらせたい」(米田監督)。一方、「追加点が取れないから、受けに回るしやれるプレーもやりきれなくなっている」と大体大・坂本康博総監督。「立命大は強い。本来の形がでてガツガツいくより仕方がない」(坂本総監督)と立命大を警戒。

関西学院大学 vs 大阪体育大学

前節こそ阪南大と引き分けたが、後期まだ負けなしの好調関学大。前半こそもたついていたが、後半は一方的に大体大を突き放して首位をがっちりキープした。前半の関学大は相手DFのウラを一気に崩すロングパスを多用したが、細かなミスが決定的なチャンスを作るまでに至らなかった。その間隙を突け込まれて逆にDF22皆口裕司からのロングボールをFW⑩川西翔太につながれて大体大に先制を許した。関学大は勢いづいた大体大に手こずったが、前半終了寸前に左からのクロスが直接ゴールインするラッキーに恵まれて同点に追いついた。

後半の関学大は、運動量のあるFW29持田和明の起用がカンフル剤になり、加えてミスも前半に比して減少し、本来の関学大らしさを取り戻し優位にゲームを進めた。そして73分にはFKからMF31高松功一が、76分には左サイドから揺さぶって持田が、さらに79分またFKからDF⑤飯田洋介がと、たて続けに加点して大体大の闘志を摘み取ってしまった。大体大は前期からの課題である「追加点が取れない」(坂本康博総監督)悩みが、このゲームでも解消されず、関学大に追いつかれてからは「勝てないから受けてしまう」(坂本監督)ことで猛攻を受けてしまった。

(文：関西学連)

関学大 4 - 1 大体大

■10月24日(土) 11:30 kick off

@鶴見緑地球技場

◆得点(アシスト)◆

大体大	31分	10 川西 翔太 (22 皆口 裕司)
関学大	44分	12 村上 達哉 (9 村井 匠)
関学大	73分	31 高松 功一 (19 阿部 浩之)
関学大	76分	29 持田 和明 (9 村井 匠)
関学大	79分	5 飯田 洋介

桃山学院大学 vs びわこ成蹊スポーツ大学

桃山大 4 - 2 びわこ大

■10月24日(土) 14:00 kick off

@鶴見緑地球技場

◆得点(アシスト)◆

桃山大	8分	11 齋藤 達也 (52 姫田 竜太)
桃山大	16分	2 中山 修志 (14 宮澤 龍二)
桃山大	23分	11 齋藤 達也 (14 宮澤 龍二)
びわこ大	63分	25 篠部 拓真 (13 平野 甲斐)
びわこ大	83分	7 小池 遼 (25 篠部 拓真)
桃山大	88分	11 齋藤 達也 (14 宮澤 龍二)

前期首位の桃山大、後期は前節にやっと白星というスロースタートぶりだが、ようやく本来の調子を取り戻してきたようだ。前半の桃山大は個々のプレーヤーの出足も一瞬早く、びわこ大DFを守勢に追い込み得点を連ねた。早々と8分にはびわこ大のクリアボールをFW52姫田竜太がカットしてFW⑩齋藤達也にフィード、齋藤が決めて先制。16分にはMF⑭宮澤龍二からDF②中山修志へ通って2点目、さらに23分にも宮澤から齋藤へと、簡単にびわこ大DFを振り回して優位に立った。しかし、この3点目を境に、桃山大のスムーズな攻守の動き、リンクが影をひそめびわこ大の猛攻を浴びた。びわこ大は「早いタテ、タテのパスでリズムをつかむ策が、前半はミス続出で」(望月聡監督)狂ったが、後半はすさまじいばかりの徹底振りで、桃山大DF陣を追い込んで、63分にはFWの⑬平野甲斐からFW25篠部拓真、83分には篠部からMF⑦小池遼とカウンターばりの早い攻めで一点差に詰め寄った。が、同点打のハズの平野のヘディングシュートがバーに跳ね返った直後、桃山大に4点目を許して万事窮した。

(文：関西学連)

立命館大学 vs 阪南大学

首位関学大から3位立命大まで同勝ち点29という混戦。24ポイントで追う6位阪南大は前節、関学大と分けただけに、今度こそその「上位叩き」を狙う。「試合への入り方が悪く、消極的だった」とは阪南大⑭東浩史主将。立命大は、攻から守への切り替えが早く、阪南大の攻めを芽の段階で摘み攻めに転じた。そして33分、先制したのはやはり押し気味の立命大。MF⑧福本尚純が冷静にPKを決めた。阪南大にとってこの際MF⑯永岩貞亮が2枚目のイエローで退場となり10人での戦いを強いられたことも痛かった。

後半、10人とはいえ攻めに出るしかない阪南大が序盤攻勢に出る。最も惜しかったのは49分、正面から狙った東のFKがバーを直撃した場面だったが、その後阪南大の勢いも続かない。両チーム、ボールは回るものの、なかなかタテに仕掛けられずチャンスを作れない膠着した状態が終盤まで続くが、86分、立命大は交代出場コンビが阪南大ゴールをこじ開けた。FW44玉林郷のパスですり抜けたMF⑭内藤洋平がGK①竹重安希彦との1対1を決め、ほぼ試合を決めた。阪南大はロスタイム、MF⑧長瀬圭佑が相手クリアを豪快なボレーで一矢を報いるのが精一杯だった。

(文：サッカーライター 貞永 晃二)

立命大 2 - 1 阪南大

■10月24日(土) 11:30 kick off

@西京極総合運動公園補助競技場

◆得点(アシスト)◆

立命大	33分	8 福本 尚純
立命大	86分	14 内藤 洋平 (44 玉林 郷)
阪南大	89分	8 長瀬 圭佑

ともに前節の敗戦からの悪い流れを断ち切りたい一戦。4位同大は、この試合と大院大との延期試合(28日開催)に連勝し、上位3強に勝ち点で並びたいだけに大事な試合。一方の大教大は、教育実習で練習できない選手もいて苦しいが、波のある同大につけ込みたい。21分、試合を動かしたのはここまでチャンスがなかった同大。MF⑩北森陽介のスルーパスをFW⑫田中大輔が右に流し最後はMF⑯徳丸敬紘が流し込んだ。その後、同大はサイドを効果的に使って攻撃し、大教大はそれをはじき返しながら、カウンターのチャンスを狙う展開へ。

後半早々の46分、大教大がDF④高垣淳司の左足FKで同点とする。プログラムの彼の紹介フレーズ『世界レベルの無回転』も納得の長距離砲には、同大GK21堀之内義博も「すごいブレ球」とお手上げ。追いつかれた同大は直後のCK連続3本も活かせず、大教大の攻撃は加速し一気に逆転というムードへ。しかし決着をつけたのは77分、同大の1年生FW83石津令門のリーグ初ゴール。途中交代のFW22市川俊治朗のパスを冷静に決めた。その後の大教大の追撃を凌いだ同大は少ないチャンスを確実に決める巧者ぶりで、3強に追いつくチャンスを得た。

(文: サッカーライター 貞永 晃二)

同大 2 - 1 大教大

■10月24日(土) 14:00 kick off
@ 西京極総合運動公園補助競技場

◆得点(アシスト)◆

同大 21分 16 徳丸 敬紘

(12 田中 大輔・10 北森 陽介)

大教大 46分 4 高垣 淳司

同大 77分 83 石津 令門 (22 市川 俊治朗)

大院大 3 - 2 大産大

■10月25日(日) 11:30 kick off
@ 鶴見緑地球技場

◆得点(アシスト)◆

大産大 23分14 藤下 恭之 (9 西之宮 慎司)

大産大 27分10 橘 章斗 (9 西之宮 慎司)

大院大 57分 9 岡村 和哉 (5 尾泉 大樹)

大院大 62分 6 高橋 周也 (9 岡村 和哉)

大院大 71分 9 岡村 和哉

波乱の逆転劇が繰り広げられた一戦。前半、リードしたのは大産大。主将・FW⑨西之宮慎司が体を張ったポストプレーで2列目から上がってくる味方へ配給し、サイドからのパスにはスピードあるFW⑬西原周平が飛び出すなど、完全に大産大ペースで試合が運ぶ。そして23分、左サイドから西之宮がポストで落としたボールにMF⑭藤下恭之が反応し先制点を決めると、その4分後にはFKのチャンスから最後はMF⑯橘章斗が押し込み2-0。前半は大産大のリードで折り返す。

しかし、ここまで息を潜めていた大院大の主将・MF⑦加藤健太が「このままじゃ終われない」とチームに檄を飛ばすと、ここから大院大の逆転劇が始まった。「最低でも15分以内にゴールを獲ろう」と藤原義三監督のプラン通り、DF⑤尾泉大樹の絶妙のFKをFW⑨岡村和哉が決め、さらにMF⑥高橋周也の2戦連続弾で同点に追いつく。勢いに乗ってきた大院大は、FKから相手のクリアボールを拾った岡村が体勢を崩しながら放ったシュートで逆転弾。「勝負弱かった」と大産大・櫛引実監督は肩を落とした。このまま大院大が逃げ切り2連勝を飾った。

(文: フリーライター 久住 真穂)

3連敗中の京産大は悪い流れを断ち切るべく前節から数人メンバーを入れ替え挑んだ試合。対する関西大は、前節からの課題であった守備の「ラインを高く」をテーマに掲げ、前線は1トップ2シャドーと攻撃的な戦術で臨んだ。序盤から試合を支配したのは関西大。関西大の高いDFラインに京産大攻撃陣が付け入る隙を与えてもらえず、MF⑩小笠原有生がこぼれ球からシュートを放つが、枠を捉えることができない。重苦しい試合が動いたのは、前半30分、左サイドからMF⑧藤澤典隆の柔らかいパスをFW⑦金園英学が合わせて先制ゴール。1-0で迎えた後半、開始早々から京産大が前線からの押し上げでファウルを奪い、好位置からのFKを何度も得たが、ゴールが遠い。何とか追いつきたい京産大だが「個人技・組織力、全てが相手のほうが一枚上手だった」(京産大・古井裕之監督)と、追加点を奪ったのは関西大・金園。一瞬で相手DFの裏へ飛び出し天皇杯以来の連続ゴール。さらにコパ(ACミラン所属)のゴールパフォーマンスで観衆を楽しませた。その後も攻め続けベストゲームの内容とはいえないが関西大は安定した戦いぶりで逃げ切り、後期負けなしで2位の座を守りきった。

(文: フリーライター 久住 真穂)

関西大 2 - 0 京産大

■10月25日(日) 14:00 kick off
@ 鶴見緑地球技場

◆得点(アシスト)◆

関西大 30分 17 金園 英学 (8 藤澤 典隆)

関西大 67分 17 金園 英学 (13 西岡 謙太)